

# くらしの目線で市政を変える

こんにちは  
日本共産党

市会議員  
**西野さち子**です



## くらし・福祉いちばんの新しい京都市政を!!

京都市会  
決算議会

**敬老乗車証の負担増は許せない!!**  
**市民生活を守れと西野市議が追及**

9月27日～10月31日の会期で、昨年度の決算審議をする議会が始まりました。

行財政局の質疑で日本共産党は、7億円の赤字という決算に対して「職員の人数を1400人も削減して人件費を抑え、国の言うままに臨時財政対策債を過去最高に発行して見せかけの赤字解消したもので、本当の意味での赤字と言えるのか」と指摘しました。

与党議員からも「収支トントンにして借り入れた基金に返すべきだった」「赤字財政が解消されたとの誤ったメッセージになる」等の意見が出される始

### 中村和雄弁護士 伏見を駆けめぐる



9月23日の午後、中村和雄弁護士は醍醐から向島まで、「脱原発・雇用・国保」について話し「市政を変えよう」と訴えました

末でした。

西野市議は「財政再生団体になると市民を脅し、市民サービスを切り捨ててきた市政は問題。財政改革の実施計画は市民生活を守る視点で取り組むことが重要。見直し項目にあがっている敬老乗車証の見直し負担増は絶対にすべきでない」と追及。部長は「縮小する」という意味ではない」と答弁しました。

### 関西盲導犬協会を訪問

#### 京都市でも支援制度を

醍醐にお住まいの方から「日本では盲導犬への理解がまだ遅れているので、もっと多くの人に現状を知ってほしい。」という声が寄せられました。



早速西野市議は、亀岡にある関西盲導犬協会にお伺いして、運営状況や困っておられる事、京都市として出来ることなどをお聞きしました。

伏見区には現在2人の方が盲導犬を利用されているようですが、日本ではまだまだ市民権を得るところまでの理解が広がっていないためか、盲導犬を連れて自由に出入りのできる施設が少なく、公共交通機関の利用にも気を使うことが多いそうです。

また、盲導犬を100匹育てても、向き不向きがあって30匹くらいしか盲導犬にならないそうです。えさ代など大変な費用がかかります。

しかし、京都府からの助成金が少しあるだけですから運営が大変です。募金活動が非常に大きな役割をしているそうですから、もっと広く多くの方々に現状を知っていただくことや、京都市にも支援制度を作るために頑張らなければならないと思います。

政  
市だより

**市長総括質疑が  
直接傍聴に**

議会改革の一つとして、今議会からは市長総括質疑が本会議場で直接傍聴できることになりました。

これまでは別室でのモニター傍聴しかできませんでした。

今後は常任委員会の質疑や局別質疑も直接傍聴できるようになります。

10月20日・21日です。ぜひおいで下さい。

